



人と環境にやさしいトランジットモデル都市をめざして RACDA

第 170 号

2017 / 11

# 商店街を囲む路面電車と ホコ天・トランジットモール



Picture@VINCENT-FUJII

## フランス・ストラスブールの都心、路面電車と歩行者だけの「トランジットモール」

■夕方5時のトランジットモール、歩行者天国の中を路面電車だけが走る空間。すごいのは自転車だけでなく、ベビーカー、車いす、キャリーバックを杖代わりに使うお婆ちゃんまでもが、頻りに行き交う路面電車の間をすり抜けていく。この都心の広場は周辺からのいくつかのLRT路線から乗り入れた超低床電車が直角に交わる場所。岡山で言えば天満屋バスステーションに、総社と西大寺と玉野と赤磐からの電車が乗り入れているようなものだ。以前は5万台の車が走っていた道路に、今は人があふれている。こうしたトランジットモールはヨーロッパ各国にあって、もう普通の景色になっている。(写真・ヴァンソン藤井由実)

NPO 法人公共の交通ラクダ(RACDA)

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F TEL&FAX 086-232-5502

E-mail: info@racda-okayama.org

URL: <http://www.racda-okayama.org>

RACDA

検索



■世界的に路面電車は、後から出来た鉄道の幹線駅と旧都心を結ぶために建設された。岡山でも田んぼの中の岡山駅から表町や後楽園、京橋を結んでおり、大正12年に京橋が拡幅されて東山に延び、旭川の東側に市街地が形成されるきっかけとなった。現在の路線を眺めてみると、東山線と清輝橋線は表町商店街を取り囲むように走っている。

■表町の北には城下電停がある。降りると後楽園や岡山城も近いが、上之町の商店街のすぐ北側。シンフォニーホールもある。表町商店街を歩いて南下すればすぐに天満屋にたどり着く。天満屋バスステーションは東山線の県庁通りと清輝橋線の郵便局前の停留所を両側に持つ。さらに天満屋から南に歩くと、時計台から東西に商店街が続く。東には西大寺町電停があり、西に歩くと新西大寺町電停がある。これでもし市民会館が出来たときに路面電車を環状化すれば、当然千日前に電停ができるだろう。表町の商店主達はこの便利な路面電車の機能をどこまで自覚しているのだろうか。

■路面電車駅前乗り入れでは、駅前商店街から反対が出ているというが、実は現在でも駅前電停は駅前商店街を見通せないものの、100mもない位置にある。西川緑道公園電停は駅前商店街を見通せる位置にあるのだ。駅前商店街の商店主達が路面電車の存在意義を知らないとしたら、不思議なことだ。もっと路面電車沿線の住民に営業してもいいはずではないか。そして駅前に路面電車が乗り入れれば、駅前商店街から見通せる位置に電停ができる。これは大変なビジネスチャンスになりえるのだが。

■西日本では中心市街地の商店街が路面電車によって囲まれている都市は結構ある。広島、高知、松山、熊本、長崎、鹿児島などの諸都市がそうで、路面電車のない町に比べれば中心商店街の落ち込みは小さい。一方宇都宮市では現在路面電車はないが、路面電車の都心活性化機能に着目して450億円以上掛けて新設のLRTの建設に着工する。ゆくゆくは都心に直結した路面電車部分も作ることになる。

■富山では10月に都心の路面電車区間でトランジットモール実験が実施され、姫路駅前もバスだけのトランジットモールようになった。京都四条河原町では4車線を2車線にして歩行者空間を広げ、先日は宮崎でも都心道路を閉鎖して歩行者天国を実施。松山でも松山市駅前でも車線減少工事が完成し、沖縄・那覇の国際通りでは毎週バスだけが走る空間ができている。岡山の県庁通りの車線減少交通実験も、こうした人間性回帰の都心を作る流れの一つなのだ。(岡将男)

